

[東京外国語大学](#) > [TUFS Cinema](#) > [TUFSCinema上映作品](#) > 南アジア映画特集『マントー』上映会

南アジア映画特集『マントー』上映会

2019年05月10日 [TUFSCinema上映作品](#)

上映後の映画解説（日本語通訳あり）：ナンディタ・ダース監督

南アジア映画特集

TUFS Cinemaとは……
東京外国語大学TUFS Cinemaは専門家の解説付きの映画上映会です。映画を通じ、世界の諸地域における社会・歴史・文化の理解を深めることを目的として行われています。
今年のTUFS Cinema南アジア映画特集では、東京外国語大学南アジア研究センター(FINDAS)と共同でナンディタ・ダース氏を招き、監督作「マントー」の上映、及びワークショップを開催します。表現の自由を貫き、社会と関った作家マントーの生涯を通じ、インド・パキスタンの社会について考えていきます。

日本初上映

マントー

MANTO

【東京会場】

2019年7月4日(木)
18:00開映(17:30開場)

2019年7月7日(日)
16:00開映(15:30開場)

会場 東京外国語大学
アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
入場無料/先着順/申込み不要
定員 501名

【大阪会場】

2019年7月5日(金)
18:00開映(17:30開場)

会場 大阪大学中之島センター
入場無料/要予約(おひとり様2席まで)
定員 192名

上映後 映画解説
(日本語通訳あり)

ナンディタ・ダース監督

2018年/インド=フランス/カラー
114分/ヒンディー語・ウルドゥー語
日本語・英語字幕つき

主催 東京外国語大学南アジア研究センター(FINDAS)
東京外国語大学TUFS Cinema

共催 大阪大学外国語学部ウルドゥー語専攻
後援 大阪大学21世紀懐徳堂

協賛 Viacom 18 Motion Pictures
ANA

公益社団法人 在日インド商工協会(ICIJ)
ホテルマネージメントインターナショナル株式会社(HMI)

協力 且 匡子、大同生命国際文化基金、藤井美佳(順不同)

©Aditya Varma

【東京会場】

開催日時

2019年7月4日（木） 18:00開映（17:30開場）

2019年7月7日（日） 16:00開映（15:30開場）

※混雑が予想されるため、14:30から整理券を配布します。

会場 東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
（東京都府中市朝日町3-11-1）

プログラム

- 『マントー』 本編上映
- 映画解説（日本語通訳あり）：ナンディタ・ダース監督

その他 入場無料、先着501名、申込不要

【大阪会場】

開催日時 2019年7月5日（金） 18:00開映（17:30開場）

会場 大阪大学中之島センター（大阪府大阪市北区中之島4-3-53）

プログラム

- 『マントー』 本編上映
- 映画解説（日本語通訳あり）：ナンディタ・ダース監督

その他 入場無料、要予約（おひとり様2席まで）、定員192名

お問い合わせ（大阪会場に関する）

Email: manto2019osaka[at]gmail.com（[at]を@に変えて送信ください）

Tel：072-730-5296（大阪大学・山根聡研究室）

Tel：042-330-5328（東京外国語大学・萬宮健策研究室）

*大阪会場はなるべくメールでご予約ください。

主催：東京外国語大学南アジア研究センター（FINDAS）、東京外国語大学TUFUS Cinema

共催：大阪大学外国語学部ウルドゥー語専攻

後援：大阪大学21世紀懐徳堂

協賛：Viacom 18 Motion Pictures、[ANA](#)、公益社団法人 在日インド商工協会（ICIJ）、ホテルマネージメントインターナショナル株式会社（順不同）

協力：旦那子、藤井美佳

作品紹介

キスタンが分離独立すると、国内外で宗教対立が激化。マントーは、インドのボンベイからパキスタンのラホールへ移住を迫られる。この頃、作家としての危機を迎えつつあった。性をありのままに描く作風は検閲の対象となり、長期に及ぶ裁判に苦しめられる。言論と表現の自由に対するマントーの声明は、自信と確信に満ち、揺るぎないものであったが、やがて酒に耽溺するようになり、生活は荒廃していった。

2018年カンヌ国際映画祭ある視点部門出品。アジア太平洋映画賞主演男優賞、フィルムフェア賞衣装デザイン賞など受賞。



@Aditya Varma

監督・脚本・製作 ナンディタ・ダース
撮影 カールティク・ヴィジャイ
編集 シュリーカール・プラサード
音響 ラスール・プークッティ
美術 リタ・ゴーシュ
衣装 シータル・イクバル・シャルマー
音楽 ザーキル・フセイン
作曲 スネーハー・カーンフルカル
製作 HP Studios / FilmStoc / Viacom18 Motion Pictures / Nandita Das Initiatives
出演 マントー……ナワーズツディーン・シッディーキー
サフィア……ラシカー・ドウツガル
シャーム……ターヒル・ラージ・バシーン

マントーとは

MANTO, Saadat Hasan: 1912-1955

現代インド文学を代表するウルドゥー語作家。英領インド期に現インド側パンジャーブに生まれる。インド・パキスタン分離独立を機に、1948年パキスタン側へ移住。社会の底辺に生きる人々を主人公に据え、生き生きと大胆に描いた。性を扱うその作風から猥褻作家との非難を浴びつつも、表現の自由に果敢に挑み信念を貫いた。ラホールでその生涯を閉じる。代表作に『冷たい肉』、『トバー・テーク・スィング』、『黒いシャルワール』など。日本語に翻訳された作品も多い。

【来日ゲスト】 ナンディタ・ダース Nandita Das



インドを代表する映画俳優、監督。これまで10以上の言語と地域の監督作品に出演。カンヌ国際映画祭で審査員を二度務めるなど、その活動は世界的に評価されている。『Fire』（1996）、『1947 Earth』（1998）、『Firaaq』（2008）、『Ramchand Pakistani』（2008）（以上、日本未公開）など、ヒンディー語映画を中心に多数出演。初監督作品『Firaaq』では、2002年にグジャラートで発生した反イスラム暴動の余波を描き、国内外の映画祭で非常に高く評価された。2011年、Women of Worth（Dark is beautiful）のキャンペーンに賛同し、肌の色への偏見に対し声明を発表。10年ぶり2作目となる本作『マントー』（2018）では、インド・パキスタン分離独立の動乱期を生き抜いたマントーの生涯を映画化、大胆な表現を恐れない作家の姿を描き、表現の自由についての普遍的なメッセージを送っている。この作品をカンヌ

国際映画祭ある視点部門に出品、アニエス・ヴァルダ、ケイト・ブランシェットら世界の女性映画人とともにウィメンズ・マーチに参加して、世界に男女格差是正を訴えた。

ワークショップ「現代インド女性をめぐる問題：女優として、活動家として」

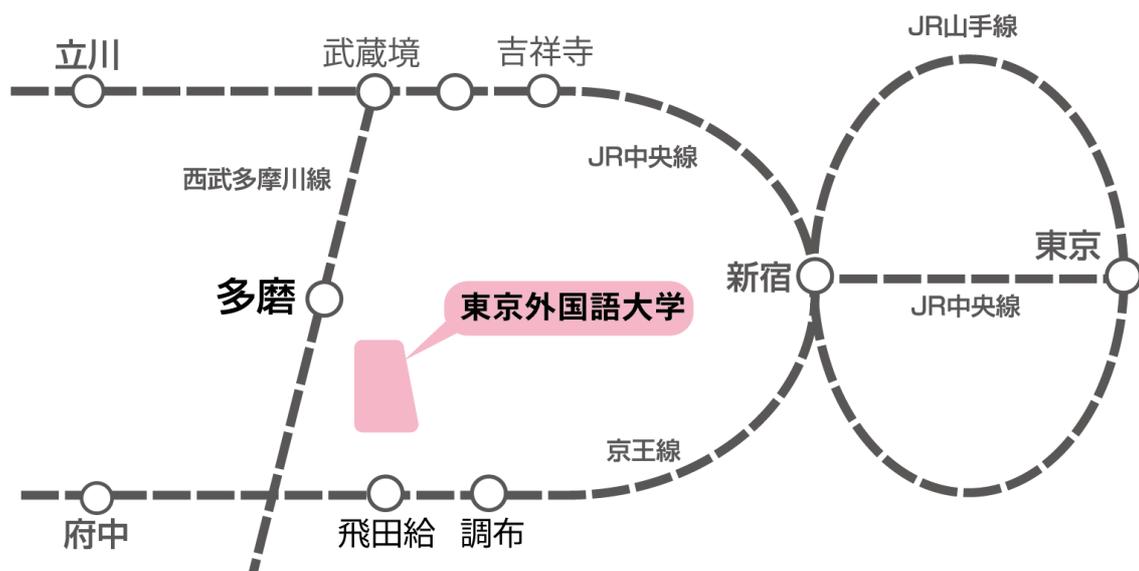
2019年7月9日〈火〉 18：00開映（17:45開場）

場所：東京外国語大学 研究講義棟1階100

登壇：ナンディタ・ダース監督

使用言語：英語／参加費無料／先着順／申込不要／定員60名

東京会場のご案内



◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約40分)

◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分 「東京外国語大学前」下車

[Google マップ](#)



キャンパスマップ



お問い合わせ

東京外国語大学 総務企画課広報係 (土日祝をのぞく 9:00-17:00)

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

Tel: 042-330-5150

【TUFS Cinemaウェブサイト】

<https://www.tufscinema.jp>

【東京外国語大学ウェブサイト】

<http://www.tufs.ac.jp>

[イベント情報などの配信]

TUFS Cinema上映会情報は、Facebook／Twitterでも配信しています。TUFS Cinemaファンの皆さま、ぜひフォローしてください。

Facebook: <https://www.facebook.com/tufscinema.pr/>

Twitter: [@tufscinema](https://twitter.com/tufscinema)



© 2017 Tokyo University of Foreign Studies.
All Rights Reserved.